

第3回「航空大学校の業務の在り方等に関する検討会」審議概要

1. 操縦士の需要見通しについて

航空局より本邦主要航空会社における操縦士の需要見通し（2017年まで）について説明。また、日本航空インターナショナル及び全日本空輸よりパイロットの需給状況について説明。

- ・ 航空会社の機材計画では今後大型機から中型機、小型機へシフトするという理解でよいのか。（委員）
基本的にはそのとおり。（航空会社）

2. 航空大学校の業務の実施状況について

航空大学校より第2期中期計画における業務の実施状況、課題等について説明。

- ・ エリミネート（注：中途退学のこと）の具体的な理由は何か。第1期中期計画と第2期中期計画で変化はあるのか。シラバスの見直しでは解決できないのか。（委員）
エリミネートの理由について第1期と第2期とで大きな違いはない。多くのケースは一定期間内に一定の技倆レベルに達しないという技術的なものである。シラバスの見直しは必要と考えている。（航空大学校）
- ・ 学科課程時間数の短縮とエリミネートの関連はあるのか。（委員）
専門技術科目に関しては、学生が大学時代に専攻していた科目により、理解度に個人差が生じることがあるが、これがエリミネートの直接的な原因ではないと考えている。（航空大学校）
- ・ 入学選考試験について、航空会社との情報交換は行っているのか。
可能な範囲で情報交換は行っている。（航空大学校）

3. 航空大学校の業務の在り方について（次回以降の検討事項）

航空局より航空大学校の業務の在り方（次回以降の検討事項）について説明。

- ・ MPLについては、今後も意見交換、議論が必要。（委員）
- ・ 長年培った操縦技倆の見極め、判定に関するノウハウは、航空会社がパイロットを採用するときに活用できるのではないかと思う。（委員）
- ・ 操縦士養成を行っている民間事業者へヒアリングを行ってはどうか。（委員）
航空大学校が昨年民間事業者にアンケート調査を実施した。その結果を踏まえ、今後の検討事項として上げさせていただいた。再度検討を行う。（航空局）
- ・ 操縦士養成を行っている私立大学の今年の試験実施状況や志願者の動向について、調査する必要があるのではないか。（委員）
次回検討会でとりまとめたものを示したい。（航空局）

4. その他

航空大学校より次期双発訓練機等の導入について説明。

（文責：航空局）